

## 古代の宇宙観(古代の歯車式天体計算機)

展示場4階の「古代の宇宙観」の展示ケースには、様々な宇宙観に関する模型や写真パネルを展示しています。その中に、錆び付いた何かの断片の展示パネルがあります(図1)。

このパネルの写真は、ギリシャのアテネ考古博物館から提供してもらったものです。「古代の歯車式天体計算機(紀元前87年)」というキャプションがあります。この年代については、もうちょっと前が正しいという説が有力なのですが、いずれにせよ2000年ほど前に作られた機器の断片で、ギリシャのアンティキティラ島の沈没船から100年ほど前に引き上げられたものであるのは確かです。

この機器は、その後CTスキャンなど近代的な方法で解析され、天体の名前と年月が書かれ、ハンドルをまわすと前面の渦巻きのような部分の指針が動き、ある年の惑星などが何座にあるのかを表す、アナログ天体計算機であると明らかになってきました。人によっては世界最古の機械式計算機といいます。その当時に、天体の運行についてかなり正確にわかっていたことの証拠でもあります。惑星の運動を機械で示す惑星儀なので、プラネタリウム(惑星儀)の元祖とも言えます。

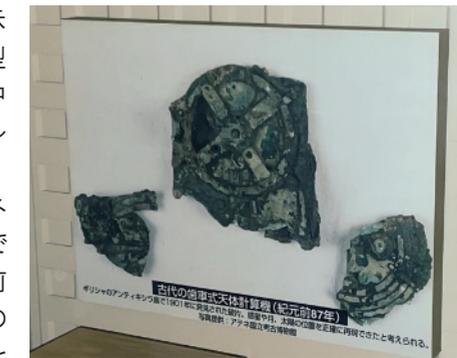


図1. 古代の歯車式天体計算機

非常に興味深いこの機械は、多角的に研究され、復元されており、そのレプリカが入手できましたので、最近このパネルの近くに展示を始めました(図2)。サイズは当時のものと同じで、渦巻き型の目盛りが印象的です。2000年前の技術や天文知識に想いをはせながらご覧下さい。



図2. 復元された計算機(レプリカ)

渡部 義弥(科学館学芸員)